

深澤晟雄に魅せられて



深澤晟雄の胸像前で記念写真の念願かなえた外館さん夫妻と子どもたち

深澤晟雄に関する資料請求や問い合わせが全国各地から寄せられていますが、生命尊重の町を直接訪問して、深澤晟雄の思いを共有したいという人々もあります。その中から、北海道から3人のお子様連れで来町の若夫婦と深澤村長の業績を短歌に詠まれる花巻市の90歳の女性をご紹介します。ご両人とも本会の活動に賛同して活動資金にして欲しいと金一封を寄せられています。

札幌から胸像訪ねて子連れ旅

10月25日午後、深澤晟雄の看板を指して札幌からやってきたのは、何と親子5人の軽自動車でした。車にはテレビ局に勤める外館(とだて)洋一さん夫妻と4、3、1歳の3人の男の子が乗っていました。外館さんは、まとまった休暇を利用して、外館姓のルーツを岩手県に訪ねようと計画中にNHKテレビを見た。私たちが子育て最中なので、深澤晟雄のテレビを見て感動した。胸像の前で記念写真

を撮って帰りたい」と語り、深澤は東北大学法学部卒だと説明されると、だから「憲法に違反しない。最高裁まで争ってもいい」と言い切った



花巻市・三田照子さん(90歳)

村長に惹かれて吾はその一生を更に知らむ」と

沢内を慕む

花巻市の三田照子さんは今年90歳。卒寿の齢を感じさせない目の輝きは、日々出会いを短歌に詠んで作歌に親しむ人生にあるようです。今年2月、NHKラジオの「ラジオ深夜便」で増田進元沢内病院長のお話を聞いて深澤村長の偉業に感動し、ぜひ、短歌にして残したいと今年の春、取材に沢内を訪れました。

んですね」と、感動を新たにしていました。

沢内駐在所長の奥様が外館姓の縁者と聞いて、急ぎよ駐在所を訪問。温かく迎え入れられて外館性情報も仕入れ、大感激のうちに宿泊先の大沢温泉に向かいました。

その後、手術を伴う二カ月の入院生活を余儀なくされますが、この間ひたすら深澤晟雄の本を読んで作歌に勤み、入院に感謝した

と、深澤村長を詠んだ歌集を添えて手紙が届きました。あきらめを希望に変へて沢内の

村を守りき深澤晟雄

三田さんの作品は本紙次号以降でも紹介します。



歴史的な大事業・冬季交通確保も人命格差解消のためだった。昭和38年冬、盛岡までの定期バスが開通。写真左に開通式に臨む深澤村長の姿がみえる。(昭和38年2月2日撮影)

深澤語録を訪ねて

「所得格差より 人命格差が問題」

昭和39年1月5日付「和賀新聞」(現在廃刊)に掲載された年頭所感「前向き姿勢で」の前半を省略、後半部分を紹介します。37年の乳児死亡ゼロ、38年の冬季交通確保を実現して迎える39年の年頭の言葉です。

私は、政府や県に対してきびしく注文をつけたいことがある。政治の作用は、概括的にモノを対象とするものと、人を対象とするものとに大別することができようが、建設行政や産業行政には、たとえ不十分ではあっても、きわめて意欲的

であるに反し、厚生行政や文教行政については、はなはだ関心が低いように思われる。生命や教育、すなわち人づくりに重点を置かないようでは、結局は政治の失敗となる。思い切つて第一着手として、生命と健康について

は、国家は一切責任を負うことにしてはどうか。生命行政は一切の行政に最優先させることこそ福祉国家の面目といふべきであろう。所得格差を問題とするより先に、人命格差を問題とすべきであろう。新年の抱負として、私はこのことについて、当局を厳しく反省させ、鞭撻いたしたい。

活動支える善意に感謝

深澤晟雄の会は多くの方々の善意に支えられて活動をしています。11月は資料館づくりの研修視察や深澤晟雄ゆかりの県内外の方々を訪ねる機会が多くありました。

代表の佐井昭三さん、花は前郷の内記俊一さんの無料提供によるものです。「お役に立てれば幸いです」というご好意に心から感謝いたします。訪問先では豊かな自然に育まれた魚や花だけに、西和賀の心が伝わるお土産として感慨深く受け取っていただきました。

録 余 集 編

生命行政発祥の地・西和賀町にまた一つ「生命尊重の精神を継承発展させる」NPO法人が誕生する。その名も「輝け『いのち』ネットワーク」だ。「子どもの理想郷づくり」をめざしつつ「生命尊重行政史研究」も視野に入れる。生命尊重の精神を形にする具体的な事業を展開するところ

に町民の期待を集める。深澤村長の偉業を後世に伝える深澤晟雄の会と同様、町民有志の組織である。それぞれ活動は異なっても生命尊重の町政と理念を共有して、両法人とも町づくりの住民パワーを担う存在である。深澤晟雄が教育長時代の昭和30年前後に組織した青年会、婦人会が、後に行政と車の両輪となつて村づくりの住民パワーを結集、「深澤旋風」を巻き起こした。その生命行政発祥から半世紀。町民有志の相次ぐNPO法人の誕生は「平成の深澤旋風」を予感させる。両法人とも全国に活動の「連帯と支援」の輪を広げているのも力強いものがある。